

# 令和2年度の海部会の活動進捗報告

## 1. 海部会の課題と今年度の活動目標

海部会で抽出された課題と今年度の活動目標を以下に示す。

| <課題>            | <今年度の活動目標>  |
|-----------------|---|
| ごみの問題           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。</li> </ul>          |
| 豊かな海の再生に向けた取り組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。</li> </ul> |
| 海と人の絆再生         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。</li> <li>・土砂移動に関する情報共有を行う。</li> </ul>                   |

※令和元年度全体会議より

## 2. 今年度の活動実績

| 活動内容                                 | 日時                       | 場所                  | 議題  |
|--------------------------------------|--------------------------|---------------------|---|
| 第43回WG（西尾市）<br>27名参加<br>（内オンライン参加4名） | 7月20日（月）<br>13:00-15:30  | 西尾市役所会議棟<br>2F第4会議室 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度までの活動進捗報告と今年度の活動目標</li> <li>・第1回勉強会（バスツアー）の内容</li> <li>・話題提供：アサリ漁業の現状</li> </ul> |
| 第44回WG（西尾市）<br>22名参加<br>（内オンライン参加1名） | 9月15日（火）<br>14:00-16:10  | 西尾市役所会議棟<br>2F第4会議室 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久島における取り組みについて</li> <li>・10年誌「矢作川流域年表を読み解く」及び「座談会」の報告</li> </ul>                     |
| 第45回WG（西尾市佐久島）<br>16名参加              | 10月27日（火）<br>11:00-18:00 | 西尾市佐久島              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久島の現地視察及び話し合い</li> </ul>   |
| 「まとめの会」（西尾市）<br>名参加<br>（内オンライン参加 名）  | 12月15日（火）<br>14:00-16:00 | 西尾市役所会議棟<br>2F第2会議室 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のふりかえり</li> <li>・次年度の活動計画設定</li> </ul>   |

※参加人数は事務局含む

### 3. 海部会 令和2年度の活動成果 まとめ

#### ごみの問題

- ・西尾市佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの現状やごみ問題の啓発について、現地視察および意見交換を行った。



佐久島の海岸での漂着ごみ拾い

#### 豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・吉田漁業協同組合の石川組合長より、矢作川浄化センターにおける窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、ご説明いただいた。
- ・西三河野鳥の会の高橋氏より、佐久島の鳥類の生息状況と環境の変化について、ご説明いただいた。



石川組合長による話題提供



高橋氏による話題提供

#### 海と人の絆再生

- ・市民部会が進めていた第1回勉強会(バスツアー)について、海部会が担当する矢作川浄化センターと吉田海岸の内容を計画した。
- ・西尾市佐久島で有限会社オフィス・マッチング・モウルの内藤美和氏や西尾市の三矢由紀子氏に、佐久島のアート作品や佐久島の取り組みについて、ご説明いただいた。



内藤氏による説明

## 4. 活動進捗報告

### 4.1 ごみの問題

#### (1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

##### 【今年度の活動目標】

○ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

##### 《進捗状況》

- ・全国川ごみネットワークが作成している川ごみ用の BINGO カードを使って、佐久島の白浜でゴミ拾いを行った。ゴミ問題に関する普及啓発ツールとしての有用性を学んだ。
- ・伊勢湾・三河湾の調査では、30×30×5cm の狭い範囲で、60000 個を超えるマイクロプラスチックが確認されたことを共有し、環境や生物への影響について、話し合いを行った。

#### (2) 今年度の活動成果

##### 《ごみ問題での課題の共有》

西尾市佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの現状やごみ問題の啓発について、話し合いを行うとともに、現地視察を行った。



佐久島における漂着ごみの調査風景

愛知・川の会の近藤朗氏より、四日市大学が実施した伊勢湾・三河湾におけるマイクロプラスチックの調査結果の概要について、情報をご説明いただいた。



## 4.2 豊かな海の再生に向けた取り組み

### (1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

#### 【今年度の活動目標】

○アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

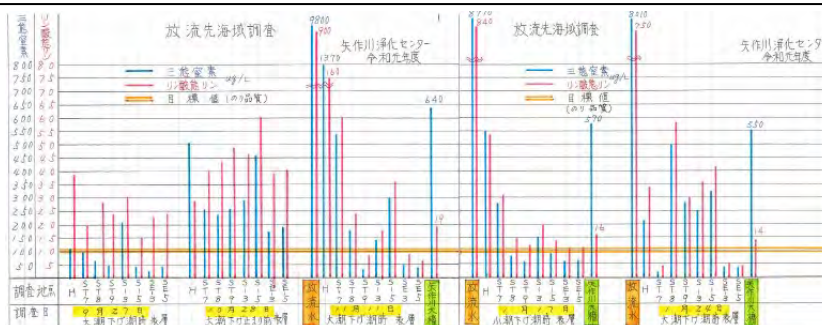
#### 《進捗状況》

- ・栄養塩類の変化と、貝類・ノリの現状から、貝類等が良好に生育できる漁場となるために、窒素やクロロフィルaの濃度増加が必要であることを認識した。
- ・西尾市佐久島では、昔から生息する鳥類が現在も見られる貴重な場所である。しかし、近年水鳥の仲間が減少しており、餌の減少が関係している可能性があることを共有した。

### (2) 今年度の活動成果

海部会メンバーの吉田漁業協同組合の石川甚右衛門氏より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、ご説明いただいた。

- 一色干潟でのアサリは、ほぼ皆無の状況。砂場だと稚貝を放流しても姿を消してしまい、春には1個のアサリを探すのも大変な状況だった。一方、渥美湾ではアサリが生息している。この違いは、流入する栄養分の差によると考えている。
- 増量放流の結果、リンの値は目標値を達成してきている。しかし、クロロフィルaの濃度は低いことから、アサリの餌となるプランクトンは、少ない状況である。かろうじてハマグリが、全浜で増えてきている。
- 窒素は目標値を下回っており、ノリの質が悪い状況が続いている。
- 現在の栄養状態で、一色干潟の漁獲を蘇らせるのは数値的に至難の業である。窒素やクロロフィルaの濃度が上がり、貝たちが生息できる漁場になることを期待したい。



西三河野鳥の会の高橋伸夫氏より、佐久島に生息する鳥類について、ご説明いただき、環境と鳥類の変化について、意見交換を行った。

- チドリ類の数が多。その中でも、ダイゼンは、愛知県の中で佐久島が最も数が多い。
- ミヤコドリは、佐久島を代表する昔から生息する鳥。
- ウグイスの数も多い。人口が減って、畑がなくなり、ササが増えた後、2000年あたりからウグイスが増えてきた。2015年の調査では、愛知県22カ所の中で佐久島が最も多い。
- 佐久島はあまり環境が変わっていないので、昔ながらの鳥がまだ見られる。
- キアシシギ等の水鳥が渡り期に見られなくなったが、餌の減少に関係しているかもしれない。



### 4.3 海と人の絆再生

#### (1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

**【今年度の活動目標】**

○海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。

○土砂移動に関する情報共有を行う。

**《進捗状況》**

- ・第1回勉強会(バスツアー)について、吉田海岸でアサリや野鳥の情報共有を計画した。
- ・西尾市佐久島で自然科学を取り込んだアート作品や、滞在型農業体験施設を視察し、三河湾と河川域に住む住民との交流手法について、情報共有を行った。

#### (2) 今年度の活動成果

市民部会が進めているバスツアーについて、海部会が担当する矢作川浄化センターと吉田海岸の内容を協議し、以下の内容が決まった。

**【矢作川浄化センター】**

○2日目(9月8日)に、60分程度の解説を予定。

○解説のテーマを明確にするため、事前に矢作川浄化センターとの調整を行う。

**【吉田海岸】**

○2日目(9月8日)に、90分程度の解説を予定。

○海の生き物の話、アサリの状況などについて、海部会から説明する。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、次年度に順延が決定

西尾市佐久島で有限会社オフィス・マッチング・モウルの内藤美和氏や西尾市の三矢由紀子氏に、佐久島のアート作品や佐久島の取り組みについて、ご説明いただき、矢作川流域の交流手法について、視察を行った。

**【アート作品】**

○カモメの駐車場は、風に向かって方向を変えるカモメの造形から、目には見えない佐久島の風の様子を感じることができる。

○おひるねハウスは、部屋に入り、海の方を向くと、自分だけの切り取られた風景を楽しむことができる人気スポット。

**【滞在型農業体験施設】**

○佐久島クラインガルデンは、離島では全国初の「滞在型農業体験施設」であり、家の前の畑を耕作することを条件に、名古屋市など都市の方々が滞在し、農業を体験できる。



カモメの駐車場



おひるねハウス



佐久島クラインガルデン

## 5. 次年度の目標について

次年度に向けた目標（活動計画）について

| <課題>            | <今年度の活動目標>  |
|-----------------|---|
| ごみの問題           | ・ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、拾って処分できるものではないため、最新の情報を共有する。          |
| 豊かな海の再生に向けた取り組み | ・アサリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。 |
| 海と人の絆再生         | ・海の生き物に触れ合うことによる上下流連携をめざす。<br>・土砂移動に関する情報共有を行う。                         |



# 矢作川流域圏懇談会通信

R2 海部会編 vol.1



発行日：令和2年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆第43回海部会WGを開催しました！

7月20日（月）に今年度初の第43回海部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。今回の海部会WGでは、活動進捗報告、今年度活動目標の確認及び、バスツアーに関する協議などを行いました。また、吉田漁業協同組合より、漁場栄養塩とアサリ・ノリの状況について、ご報告いただきました。

日時：令和2年7月20日（月） 13:00～15:30

場所：西尾市役所会議棟 2階 第4会議室

参加者：27名（内オンライン参加4名） ※事務局を含む



## ◆主な活動内容

### 1 令和元年度までの活動進捗報告と今年度の活動目標について

#### ◆令和元年度までの活動進捗報告

令和元年度は、三河湾の生物資源回復に向けた取り組みに関する意見交換、海のモニタリングによる情報の蓄積および市民への情報発信に取り組みました。

#### ◆今年度の活動目標

これまでの活動成果や課題をふまえ、今年度の目標を以下のように設定しました。

【活動目標】アサリの問題、マイクロプラスチックの問題、土砂の問題に対して、情報共有と意見交換を行う。

【テーマ別の活動目標】

ごみの問題：ごみの質も以前とは変化している。特にマイクロプラスチックの問題は、捨てる処分できるものではないため、最新の情報を共有する。

豊かな海の再生に向けた取り組み：三河湾の生物資源回復に向けた取り組みに関する意見交換と、「きれいな海＝豊かな海」ではないという認識の周知を行う。

海と人との絆再生：海の生き物と触れ合い、土砂移動に関する情報共有を行うことで、上下連携をめざす。



### 2 第1回勉強会（バスツアー）の内容について

市民部会が進めている9月7日～8日のバスツアーについて、海部会が担当する矢作川浄化センターと吉田海岸の内容を協議し、以下の内容が決まりました。

【矢作川浄化センター】

※7月31日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため懸念が決定

- ・ 2日目（9月8日）に、60分程度の解説を予定。
- ・ 解説のテーマを明確にするため、事前に浄化センターとの調整を行う。

【吉田海岸】

- ・ 2日目（9月8日）に、90分程度の解説を予定。
- ・ 海の生き物の話、アサリの状況などについて、海部会から説明する。



### 3 話題提供：アサリ漁業の現状について

吉田漁業協同組合の石川組合長より、矢作川浄化センター放流口～放流先海域における窒素・リンなどの計測結果と、アサリ・ノリの現状について、説明していただきました。ご説明いただいた主な内容は、以下の通りです。

- ・ 一色干潟でのアサリは、ほぼ皆無の状況。砂場だと稚貝を放流しても姿を消してしまい、春には1個のアサリを探すのも大変な状況だった。一方、渥美湾ではアサリが生息している。この違いは、流入する栄養分の差によると考えている。
- ・ 増量放流の結果、リンの値は目標値を達成してきている。しかし、クロロフィルaの濃度は低いことから、アサリの餌となるプランクトンは、少ない状況である。かろうじてハマグリが、全浜で増えてきている。
- ・ 窒素は目標値を下回っており、ノリの質が悪い状況が続いている。
- ・ 現在の栄養状態で、一色干潟の漁獲を蘇らせるのは数値的に至難の業である。窒素やクロロフィルaの濃度が上がり、貝たちが生息できる漁場になることを期待したい。





## ◆話し合いでの主な意見 (意見 ▶回答)

### ●令和元年度までの活動進捗報告と今年度の活動目標について

- ・市民部会でマイクロプラスチックやネオニコチノイドをテーマに、勉強会を計画するという話がある。(高橋)
  - ▶ 今後、矢作川流域圏懇談会のメンバーに情報を発信していくことで話が進んでいる。(事務局)
- ・アサリについては、貧栄養化の問題に関連して重要な課題になっている。また、当初から重要な課題として挙げられてきた土砂移動に関する問題が、なかなか進展しないので、情報共有という形で進めていきたい。(石田)
- ・「河川文化を語る会」の講演会で、マイクロプラスチック問題や海のごみを減らすために川で取り組んでいる内容について取り上げる予定である。ぜひ海部会のみなさんにも関わっていただきたい。(近藤)
- ・マイクロプラスチックや土砂の問題は、山川海に関連してくる。市民部会での勉強会などを通して、他の部会と意見交換をしながら連携して考えていくべきである。(青木)
- ・佐久島は、三河湾の中で昔ながらの自然を有する象徴的な場所である。(内藤・高橋)
  - ▶ WGの中で、佐久島とマイクロプラスチックの話題を取り上げていきたいと思う。(事務局)

### ●第1回勉強会(バスツアー)の内容について

- ・吉田海岸は90分あるので、2名で解説するのも可能だと思う。(高橋)
- ・吉田海岸では、アサリの話を吉田漁業協同組合 石川組合長に、鳥や魚などの海洋性の生き物の話を高橋さんに、それぞれ解説してほしい。また、西尾市佐久島振興課の三矢さんにも解説などをお願いしたい。(近藤)
- ・矢作川浄化センターには、質問を事前に送るなどの対応をし、テーマやポイントを絞って参加するほうがよい。(青木)
- ・矢作川浄化センターと双方の論点が整理でき、きちんと議論できるよう、事前に協議するほうがよい。(近藤)
  - ▶ 矢作川浄化センターと事前に調整することで進めていく。(事務局)
  - ▶ 事前協議のメンバーとしては、鈴木先生、井上さん、吉田漁協、国土交通省豊橋河川事務所事業対策官がよい。(近藤・高橋)
  - ▶ 海部会座長として、できれば同行したい。(青木)
- ・見学後に矢作川流域圏懇談会が積極的に行動しないと、ただの社会科見学で終わってしまう。(東幡豆漁協 石川)

### ●話題提供：アサリ漁業の現状について

- ・豊川と矢作川という大きな川があり、本来なら、山から川を通じて、栄養塩が海に出てくるはずだが、これがどこかで消えてしまう。こういう事態が起きるということは、自然が壊されているということだ。岩場には、まだアサリが生息している。また、岩場や干潟にいるアサリ以外の生き物も見なければならぬ。(東幡豆漁協 石川)
- ・我々が生まれたころの海は、生き物がたくさんいたが、今は減ってしまった。護岸の整備や河川の整備が自然を壊した一番の要因だと思う。海は危機的な状況で、自然を大切にしなければならない。(東幡豆漁協 石川)
- ・アサリは、ここ3年くらい繁殖しない状況が続いている。この状況をもっと発信していく必要がある。(石田)
- ・アサリは、渥美湾では採れているということだが、その理由を教えてください。(青木)
  - ▶ 渥美湾は、年間を通して川から作物の肥料などが出てきている。そういう河川水の栄養分が、渥美湾での貝たちの生息を可能にしている。(吉田漁協 石川)
  - ▶ 渥美半島は、まだ比較的農業が盛んで、畜産も盛んであることから、栄養塩環境は、西三河地区よりも豊富であると感じている。(青山)
  - ▶ 養鰻池の水を浄化する機械が導入されて、池の水替えが極端に少なくなった。これもノリの栄養分である、窒素の濃度を下げている要因ではないかと思っている。(吉田漁協 石川)
- ・生物生産の一番の基盤になる栄養塩類が1970年頃から減ってきた。その影響で、赤潮や貧酸素化が少なくなる現象より先に、生物がどんどんいなくなっていく。(石田)
  - ▶ 以前は、雨が降って河川水が海へ流れ出たら、プランクトンが湧いてくるのがわかった。見た目でも透明度がなくなって、プランクトンが増殖しているのがわかったが、今の海では、その状況が見られない。(吉田漁協 石川)
- ・護岸などの影響で、海岸の空間の多様性がなくなってきている。干潟や藻場、砂浜があったころは、再生産の場があったはずだ。栄養塩類だけでなく、空間の多様性も求めなければならない。(近藤)
- ・浜には必ず浅瀬があった。浅いところだと餌が生息し、生育できるが、それがなくなってしまっている。(石田)
- ・窒素やリンは、資源であると認識する必要がある。(石田)
- ・この状況を懇談会の中だけでなく、広く世の中にも伝えたいといけぬ。(近藤)

## 今後の予定

### ■第44回海部会 WG

日時：令和2年9月15日(火) 14:00~16:00 場所：西尾市役所 会議棟2階 第4会議室

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。





# 矢作川流域圏懇談会通信

R2 海部会編 vol. 2



発行日：令和2年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆第44回海部会WGを開催しました！

9月15日（火）に第44回海部会WGを、新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は佐久島をテーマに、矢作川流域圏懇談会と佐久島、佐久島に生息する鳥類、佐久島での取り組みについて、話し合いを行いました。

日時：令和2年9月15日（火） 14:00～16:10  
場所：西尾市役所会議棟 第4会議室  
参加人数：22名（内オンライン参加1名） ※事務局を含む



## ◆主な活動内容

### 1 佐久島における取り組みについて



#### ■矢作川流域圏懇談会と佐久島

愛知・川の会 近藤朗氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・ 三河湾最大の島で、面積は1.8km<sup>2</sup>。人口は少なくとも234人（2015年時点）。1996年から弁天海港佐久島プロジェクト、2001年から三河・佐久島アートプロジェクト21がスタートし、アートを使った活性化が進められている。
- ・ 2013年の第10回海部会WGを佐久島で実施し、漂着ごみについて現地視察を行った。
- ・ 山村再生担い手づくり事例集について、2014年に「もんべまるけ」、2015年に「島を美しくする会」取材した。
- ・ 流域圏担い手づくり事例集について、2018年に「流域圏担い手づくり事例集交流会2018」を佐久島で実施し、その後「有限会社 オフィス・マッチング・モウル」の取材を行った。
- ・ 2019年には、新しい佐久島の資源を探索するため、探鳥会を実施した。また、矢作川流域の海と山のコラボを考えるため、根羽村森林組合を訪問した。12月には、奈佐の浜プロジェクトの学生らによる佐久島合宿を行った。

#### ■佐久島に生息する鳥類

西三河野鳥の会 高橋伸夫氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・ 1980年代あたりから、107種の鳥類が観察されている。
- ・ チドリ類の数が多く、中でも、ダイゼンは、愛知県の中で佐久島が最も数が多い。
- ・ ミヤコドリは、佐久島を代表する昔から生息する鳥。
- ・ ハマシギが群れで見られる。生息数の推移をみると、一色干潟では減少しているが、佐久島はあまり減っていない。
- ・ ウグイスの数も多い。人口が減って、畑がなくなり、ササが増えた後、2000年あたりからウグイスが増えてきた。2015年の調査では、愛知県22カ所の中で佐久島が最も多い。
- ・ 佐久島はあまり環境が変わっていないので、昔ながらの鳥がまだ見られる。

#### ■佐久島における取り組み

有限会社オフィス・マッチング・モウル 内藤美和氏より、説明をいただきました。主な内容は、以下の通りです。

- ・ 佐久島のアートプロジェクトでは、アート作品を設置して交流人口を増やしていくことや、島の文化財・伝統文化を守ることを柱に取り組んでいる。アート、歴史・文化、自然という形で、島を訪れる人の興味に応じた選択肢を増やしていきたい。
- ・ 野鳥、海の生き物、地質などの自然を体験するプログラムを考えていきたい。最終的には、佐久島の自然観察ガイドブックを作りたいと思っている。
- ・ 今後は、アート作品、文化財、自然を3つの柱として、佐久島について考えるプログラムを作っていくことで、佐久島のプロジェクトを充実させていきたい。

### 2 10年誌「矢作川流域年表を読み解く」及び「座談会」の報告



愛知・川の会 近藤朗氏より、10年誌の編集状況及び座談会について、報告をいただきました。10年誌編集委員会では、矢作川流域圏年表を読み解くための資料として、矢作ダムができた1970年から概ね20年の単位で、その変遷をまとめた資料を作成しています。また、7月22日に実施された座談会では、「未来へ繋げていくためのプロセス」について、話しました。





## ◆話し合いでの主な意見 (意見 ▶ 回答)

### ●佐久島における取り組みについて

#### ■矢作川流域圏懇談会と佐久島

- ・ごみ問題を扱う全国のネットワークの中で、ごみ問題にかかわるツール「ごみビンゴ」の開発をやっている。(近藤)
  - ▶ 西尾市佐久島振興課でも、海岸漂着ごみをテーマとして「ごみビンゴ」の企画を進めている。(三矢)
  - ▶ 愛知県環境局資源循環推進課が漂着ごみの問題をやっている。一緒に取り組むのもよい。(青木)
- ・佐久島の最盛期の人口は何人くらいか？ (青木)
  - ▶ 最盛期の人口は、1947年で1634人。2015年時点で234人。(近藤)
  - ▶ 私の地元でも耕作放棄地や空き家がみられており、これらの対策は重要である。(青木)

#### ■佐久島に生息する鳥類

- ・伊勢湾のいろいろなところで鳥が減っている。アサリの減少と鳥の減少の流れが、ほぼ同じように感じる。その中で佐久島では、昔からの鳥が残っているというのは、すごいと思う。(近藤)
  - ▶ 環境や景色が昔と変わらないのに鳥類が減っている。減っているのは水鳥の仲間。原因は栄養だと思う。市民部会で話し合われている、マイクロプラスチックやネオニコチノイドも関係があるかもしれない。2017年頃からキアシシギなどが、春と秋の渡り期に見られなくなったのも餌の減少に関係しているのかもしれない。(高橋)
- ・世界的に見たらどうなのか。日本だけ減っているのか。(青木)
  - ▶ 渡り鳥の多くは減少傾向にあるが、九州など大都會が近くにないところでは、それほどひどい減少はない。埋め立てが進んでいる中国などでは、減っている。伊勢湾・三河湾は、目に見えて減っているかもしれない。(高橋)
  - ▶ ウミガメも最近減ってきている。その原因が、餌の減少ではないかと言われている。(青木)

#### ■佐久島における取り組み

- ・林野庁が、1985年から1990年頃に森林環境整備事業を実施し、愛知県では佐久島が対象となっていた。(井上)
  - ▶ 佐久島の北側の森林を整備した計画で、現在、散策できるようになっている。(三矢)
- ・人間が手を加えることで成立しているのが、日本の自然だと思う。人間がうまく利用し続けることが重要。(高橋)
  - ▶ 手の加え方は考える必要がある。たとえば、護岸を作ると浸食がすすむ場合がある。こういう手の入れ方はよくない。三河湾は埋め立てされたところが多く、自然の浜が少ない。これが三河湾を悪くした一番の原因だと思う。ただ、佐久島は岩場なので浸食が少ないため、護岸はあまり整備されないと思う。(東幡豆漁協 石川)
- ・日間賀島も佐久島も、漁師の島から、観光の島に変わりつつあるが、佐久島はまだ漁師の島であるように思う。観光客は、島の住民と交流して、一緒に行動してほしいと思う。(東幡豆漁協 石川)
  - ▶ 子どもたちは島にいない。漁師の子どもも島に残らない。地域を支えるには、最低限必要な人数がいる。漁師は漁師、役所は役所、それぞれの立場で考えないといけない。一方で、観光業の人は比較的残ってくれる。観光業の人に残ってもらうためにも、交流人口を増やす必要がある。(内藤)
  - ▶ 人口減少が止まらないということが何を意味するのかを考えて、島の人とも相談しながら、島の人に関わってもらえるような事業を考えていく必要がある。(東幡豆漁協 石川)

### ●10年誌「矢作川流域年表を読み解く」及び「座談会」の報告

- ・10年誌の目的は、懇談会が今後どうしていくのかを考えるためのものとしてやっている。(近藤)
- ・懇談会を実施してきた間、最も変化があったのは海だと思う。そういった視点も含め、次の10年は流域圏全体がどうあるべきかを考えたい。流域圏全体で、きれいさだけではなく、豊かさにも着目していく必要がある。(近藤)

### ●今後の予定について

- ・各部会の10年を整理しているが、当初の海部会は、ごみ問題などを取り上げ、いろんな現場に行っている。(近藤)
  - ▶ 今回は佐久島をテーマに話し合った。次回WGは佐久島で実施してはどうか。海部会であることから、海を見るポイントや鳥の話などをテーマにするのがよい。(青木)
- ・一色の渡船場から佐久島に行くときに見えるだろう、ノリの養殖の状況が気になる。(中根)
  - ▶ 10月27日であると、例年ノリの網が海に出ている。ポール設置はすでに取り掛かっている。(吉田漁協 石川)

### ●その他意見等

- ・西尾市より、「アサリ資源回復のための栄養塩濃度確保について」という意見が、県に出されている。(中根)
- ・西三河地区の環境基準の類型指定を見直す必要がある。今まで基準値を満たしていなかったからアサリが採れていたが、基準値を満たし始めた途端に、アサリが採れなくなってきた。(鈴木)
- ・時代は変わって、栄養塩や干潟などが問題となっている。従来の矢水協方式に何かをプラスしないとまずいのではないかなと思う。(鈴木)
- ・アサリの餌はケイ藻が好適とされる。ケイ藻が優占できる処理水の放流について、検討するべきと考える。(井上)

## 今後の予定

### ■第45回海部会WG

日時：令和2年10月27日(火) 11:00~18:00 場所：西尾市佐久島

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。





発行日：令和2年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

## ◆第45回海部会WGを開催しました！

10月27日（火）に第45回海部会WGを新型コロナウイルス対策を徹底した上で開催しました。今回は佐久島を訪れ、海岸における漂着ごみの状況、アートを軸とした取り組みの状況等について、現地視察と話し合いを行いました。

日時：令和2年10月27日（火） 11:00～18:00  
場所：西尾市佐久島  
参加人数：16名 ※事務局を含む



## ◆主な活動内容

### 1 佐久島の現地視察

#### ■海岸での鳥類観察

一色港からフェリーに乗り、海苔養殖の竹柵などを観察しながら、佐久島東港に到着しました。民宿市兵衛で昼食をとった後、海岸にそってウォーキングしながら、高橋伸夫氏の解説で野鳥観察を行いました。佐久島を代表するミヤコドリや、多くのカモメが観察されました。

#### ■カモメの駐車場

大浦海水浴場では、美術家 木村崇人氏の作成した、カモメをモチーフとしたアート作品「カモメの駐車場」と佐久島の風の関係などについて、内藤美和氏に解説していただきました。風に向かって方向を変えるカモメの造形から、目には見えない佐久島の風の様子を感じることができます。

#### ■クラインガルデン

クラインガルデンでは、内藤美和氏と三矢由紀子氏に、施設の目的や内容について説明していただきました。佐久島クラインガルデンは、離島では全国初の「滞在型農業体験施設」であり、家の前の畑を耕作することを条件に、名古屋市など都市の方々や滞在中、農業を体験します。クラインガルデンを通じて、都市住民との交流を活性化させることにより、地域づくりや利用者の定住を促進させることを目指しています。

#### ■白浜海岸

白浜海岸をウォーキングし、浜に漂着するごみの現状を視察しました。参加者は、「佐久島漂着ゴミ BINGO」などを使ってごみの収集を行い、様々な漂着ごみの種類を記録しました。

#### ■おひるねハウス

佐久島を代表するアート作品である「おひるねハウス」を見学しました。西集落の黒壁をモチーフにした3段・9部屋で構成されるハウスは、建築家 南川祐輝氏の作品で、土日には撮影のために行列がでるほどの人気だそうです。部屋に入り、海の方を向くと、自分だけの切り取られた風景を楽しむことができます。

#### ■弁天サロン 「佐久島・秋の野鳥展」

弁天サロンのギャラリーに展示されている「知られざる野鳥の楽園 佐久島・秋の野鳥展」（西三河野鳥の会）を見学しました。写真提供者である高橋伸夫氏に、展示されている佐久島の野鳥について解説していただきました。

### 2 話し合い

平成26年に行った佐久島でのごみ調査を振り返りながら、漂着ごみの現状、マイクロプラスチック問題、「ゴミ BINGO」などを使った啓発活動の状況などについて話し合いを行いました。



海苔養殖の竹柵



民宿市兵衛 昼食



野鳥観察



カモメの駐車場



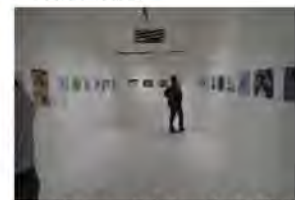
クラインガルデン 話し合い



白浜海岸 漂着ごみの調査



おひるねハウス



弁天サロン 佐久島・秋の野鳥展



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●佐久島の漂着ごみについて

#### ■佐久島での漂着ごみの調査

・海部会では、平成26年に2回の漂着ごみ調査を実施した。白浜海岸と西の浜で実施しており、自然系のごみと人工系のごみを識別して記録を行った。(青木)

#### ■漂着ごみの現状について

・ごみの問題は、美化の問題から水質の問題にまで及んでおり、海としても大きな問題になっている。ごみは流れ、海にたどりつく。佐久島はまだ漂着ごみが少ない方が、苅志島ではとんでもない量になっている。三河湾も伊勢湾の一部でつながっていることから、海の問題を矢作川流域圏でも考える必要がある。漂着ごみがどこから流れてきたのかをみると、いろんな流域が繋がっていることがわかる。(近藤)

・三重県四日市の海岸では、肥料用のプラスチックカプセルが最近急に見つかりだした。マイクロプラスチックによる影響は、まだ明確になっていないが、人や環境に及ぼす影響について想像力を働かせることは重要である。(近藤)

・海部会で、海底に沈んでいて見えないごみがとても多いという話題になったことがある。(青木)

▶ 昔は、水産庁の助成事業でお金が出ており、漁業者が仕掛けた網に入ったごみは、陸に持ってきて処分ができた。海のごみ問題は、個人での対応は難しく、公的な機関による対応が必要である。(鈴木)

▶ 碧南市では、テトラポットが大量のごみを抱き込んでしまっている。マイクロプラスチックの元ともなるので、行政が主導して対策をとる必要がある。(金田)

・ごみが集まるところは良い漁場だと言われているが、護岸が整備されてごみが集まる場所がない。砂浜とかは、打ち上がる場所があるので、ごみもそういう所に集まる。(石川)

▶ 大阪湾は、全域がほぼコンクリート壁となっている。浜がないのでごみ問題もあまりない。ごみ問題があるということは、それなりの漂着できる浜があるということかもしれない。(青木)

#### ■漂着ごみ問題の啓発について

・全国川ごみネットワークでは、「水辺のごみ見つけ!」という市民による一斉調査を実施している。また、「BINGO 川ごみ用」を配り、ごみを拾いながら、ごみへの関心を高める工夫を行っている。(近藤)

▶ 西尾市では、佐久島に漂着するごみを加えたオリジナルの「佐久島漂着ごみBINGO」を作成した。(三矢)

▶ 啓発活動はとても大事なことで、学習や教育は必要だと思う。(金田)

▶ 環境に影響を与える可能性があると知らずに使っている物が、問題を引き起こすかもしれないことを多くの人に知ってもらいたい。(近藤)

▶ 昔は、飲み物の入れ物として瓶などのガラスが使用されており、回収されていた。また、ビニール袋の代わりに新聞紙を使っていた。(高橋)



ゴミ BINGO



### ●その他意見等

・12/26~27に「川づくりワークショップ」を名古屋で開催する。オンラインなので、矢作川流域圏懇談会からも発表を検討してほしい。(近藤)

## 今後の流域圏懇談会の予定

### ■海部会まとめの会

日時：令和2年12月15日(火) 14:00~16:00 場所：西尾市役所会議棟 第4会議室

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 中村  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagikawa@iinet.or.jp)までお送りください。